

年 組 名前

2021年6月15日付夕刊

## 埼玉の小6発見 米学術誌に掲載

# カブトムシ 昼もゴソゴソ

夜行性とされるカブトムシが昼間でも特定の種類の木では活動していることを、埼玉県杉戸町の小学六年、柴田亮君（こ）が二年間の観察で明らかにした。山口大の小島渉講師（昆虫生態学）と共同でまとめた論文が米国の学術誌「エコロジー」に掲載され、同誌はツイッターで「生態学者になるには若すぎる、なんてことはない」と証明してみせた」と賛辞を贈っている。



カブトムシを観察する柴田亮君。昨年8月（母真理子さん提供）

## 自宅の庭観察 疑問抱く

小島さんによると、カブトムシは日没後、主にクヌギの樹液に集まって食事し、昼間は別の場所に移動して眠る習性がある。カブトムシに興味を持つ柴田君は四年生だった二〇一九年夏、自宅の庭にある東南アジア原産の木「シマトネリコ」に日中も集まっているのを見て疑問を抱いた。

約一カ月間、シマトネリコにいたカブトムシの数を一日三〜五回記録。カブトムシに関する本を図書館でたくさん借りて読み、そのうち一冊の著者、小島さんにメールで質問し、観察方法などのアドバイスを受けた。

翌二〇年には絵の具で百

六十二匹に印を付ける手法を導入。二年間で計二百三十一回に上る観察の結果、多くのカブトムシが夜間に飛来し、日中も食事や交尾をしていたことが分かった。二十四時間以上とどまっていたケースも確認できたという。

小島さんは成果を世界に向けて発表しようと思案を送った。「カブトムシの活動時間は気温の影響を受けると考えられてきたが、食事する木が変わるのは新発見。今後の研究で理由が分かれば面白い」と話す。

「かわいくてかっこいいカブトムシに会えるのが毎回楽しみだった」と振り返る柴田君。いつかは個体追跡調査やシマトネリコの樹液の分析にも挑戦し、研究を深めたいと意気込んでいる。

○ 柴田君の研究についてまとめてみましょう。

問1：研究しようとしたきっかけは、何でしょうか。

問2：どんな方法で研究を進めたのでしょうか。

- ① 約（ ）カ月間、（ ）にいるカブトムシの数を一日（ ）回記録。
- ② （ ）に関する本を図書館で借りて読む。
- ③ 小島さんにメールで質問し、（ ）などのアドバイスを受ける。
- ④ 絵の具で（ ）匹に印を付ける手法を導入。

問3：研究の結果、どんなことが分かったのでしょうか。第1段落から抜き出して書きましょう。

問4：今後はどんな研究をする予定ですか。

- ① （ ）
- ② シマトネリコの（ ）